

文化庁「日本博」企画委員会(第3回)議事要旨

【日 時】

令和元年5月27日(月)15:00~16:30

【場 所】

文化庁 特別会議室

【委員出席者】

織田紘二委員, 河村潤子委員, 河野俊嗣委員(代), コシノジュンコ委員, 小林達雄委員, 小松大秀委員, 佐藤雅敏委員, 高階秀爾委員, 小山薫堂委員, 根立研介委員

【文化庁】

宮田長官, 中岡次長, 杉浦審議官, 坪田参事官, 榎本課長, 奥主任調査官, 山田新文化芸術創造活動推進室室長

(1)事務局から、「日本博」事業(主催・共催型, 公募助成型, 参画プロジェクト)の進捗状況の説明。(資料1~4)

次に, 各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下の通り。

- 「日本博」事業には素晴らしいものが多いがあるが, どのようにして一般の方に知ってもらうか, 空港や駅など様々な方法がありうるが, どのようにメッセージしていくかが重要である。
- 「日本博」のテレビ番組を作れないか。番組を作って, 毎週放送できたら発信力がある。もちろん, 新聞やインターネットでもよい。
- 「日本博」を知っている人は知っているが, もう少し周知していく必要がある。まだまだ不十分ではないか。最近の若い人はテレビを見ないし, 新聞を読まない。インターネット等を活用することがやはり大事である。
- テレビ広告などの効果はいまひとつではないか。若い人にはインスタ映えが必要である。どのプロジェクトにもインスタ映えする素材がたくさんある。また, それぞれのプロジェクトは点と点としては素晴らしいが, それを線にすることが大事である。まだまだ結びついていないところがあるのではないかと感じる。
- 一般の人への周知が大事である。元々そのプロジェクトがあって, 「日本博」とは関係なく行きたい人が行くということではなく, 「日本博」でそのプロジェクトを知った人に行ってもらえるように広報していくことが必要である。そのためにも, なりふり構わず「日本博」という名前を覚えてもらう必要がある。オリパラの後も続くものであるので, 是非名前を周知して欲しい。
- 「日本博」とは何かと聞かれたら誰でも答えられるような説明が必要である。「日本の文化再発見」や「日本の文化は面白い」など, サブタイトルがあると良い。誰でもわかるようなサブタイトルがあるとイメージが付きやすい。

- 広報について、今のところいろいろ整えている最中のため、バラバラに見えていると思う。ストーリーとしてつながっていくことが大事である。
- シンボリックなものが必要である。「日本博」のそれぞれ個々の内容は面白いが、バラバラで積みあがっていないと感じる。それを抽象的な言葉をつかって積み上げて前面に出すことでより理解されるのではないか。
- いつもやっている企画に行きたい人は行くし、「日本博」だから行くということにならない。もっと日本の文化を使ったサプライズをしていく必要がある、それが結果として「日本博」のPRになる。普段文化に接しようと思ってない人が触れるきっかけをつくるためにも、文化でどのようにして国民にサプライズしていくかを考えるのが大事ではないか。
- 「縄文から現代」までという大きな観点からのコンセプトであるのに、縄文をしっかりと伝えるようなプロジェクトが十分でないと感じる。待ちの視点ではなくこちらから開拓する視点で考えてほしい。
- 縄文こそが日本の原点である。
- いろいろな分野でも是非、国が、文化庁が、主催でビジョンをもってやってほしい。
- 「日本博」と教育との分野につながっていないと思う。子供たちが英語を使って発信などを期待している。
- 「日本博」では、他省庁と連携していくことも大事である。
- 地方でも一緒に盛り上げていくため、地方も頑張らなければならない。また、「日本博」全体として盛り上げてほしい。外国人向けツアーを企画するときには「こんな日本文化がある」と盛り込めたら良い。
- それぞれのプロジェクトで重要なのは内容であるが、内容だけでは進まないという現実もある。実現させるためには様々な経費が必要となるが、それを実施主体だけでは負担しきれない規模になる場合もある。それをどうにかできるような幅の広さを考えてほしい。
- 「日本博」の採択が高い競争倍率の結果であることが伝わるという。
- テーマをどう活かしているか、どう説明しているか、歴史的な背景から説明できるようなプロジェクトかどうか分かることが大事である。異文化の人にもわかるような説明の仕方を考えてほしい。
- オープニングセレモニーに力を集中してみてもどうか。オリパラもそうだが、開会式は重要である。

(事務局)

- 関係者には「日本博」について知られていると思うが、それ以外の方については必ずしもそうではない。空港などを使って効果的に広報していく必要がある。
- 「縄文から現代」というのは重要なテーマである。そのテーマに沿った縄文の生活美といったものをどのように取り上げられるかが重要である。
- 「日本博」というのは何か。子供の素直な気持ちから「日本博」とは何かと聞かれたときに正しく説明できるように「日本博」と自然との関わり、背景が説明できることが重要な

ではないかなと感じている。サプライズや、SNSなど様々な意見をいただいたので、しっかり情報共有をして作り上げていきたい。

- 「日本博」とは何かというのはこれから作っていくものではないかという面もある。どうい
う方法で積み重ねていくかこれから考えていかなければいけない。
- 「日本博」のイメージが湧くまでにいかなくとも名前を覚えてもらうことが大事である。
- 事業の採択に際し、単に不採択であることを通知するだけでなく、委員からの意見を踏
まえ、足りない点をしっかり伝えるようにしていきたい。
- 地方で良いことやっけていてもアクセスが不便ということもある。その課題をクリアしていく
ため、旅行会社などとの協力も検討していきたい。

(以上)